



けんびょういん

No.17

岐阜県立多治見病院 平成19年12月1日発行 第17号
ホームページアドレス http://www.pref.gifu.lg.jp/pref/tajimi_hospital/

発行責任者/舟橋 啓臣
編集/岐阜県立多治見病院広報委員会

「がん診療連携拠点病院」



左から 医療連携室小林師長、
原田副院長、
山本緩和ケア認定看護師

がん診療連携拠点病院とは

「がん」は過去数十年の国をあげての取り組みにもかかわらず死因の第一位を占めています。そこで国はがん撲滅対策のひとつとしてがん対策推進基本計画を策定するとともに、国立がんセンターを中心とした拠点病院制度を全国に構築しました。その目的は、全国どこでも同じような質の高いがん医療を提供するために、拠点病院が中心となる地域医療機関との連携を密にしつつ専門的な医療を行うことです。

がんの現況

平成17年の調査では、岐阜

県でのがんによる死亡者数は5千人を越えて年々増えており、死因の約3割を占めています。厚生労働省の推計によると、生涯のうちにかんにかかる可能性は男性の2人に1人、女性の3人に1人とされています。がんにかかった部位別では、男性は胃、大腸、気管支・肺、前立腺、肝臓、女性では乳房、大腸、胃、気管支・肺、子宮の順に多くなっています。

一方県内市町村におけるがん検診受診率は15・28%で、全国平均よりはやや高いもののまだ低い水準です。目標は50%と高く設定されており、住民の意識向上と体制の整備が必要です。また治療については平成18年の県民意識調査では、約4割の方が自宅での医療や介護が受けられる在宅ケアの体制推進を希望されています。

県病院の取り組み

1 がん診療の充実

がんの治療として1年に手術4百件以上、内視鏡下手術70件以上、放射線治療のべ7千人以上、化学療法（抗がん剤治療）のべ5千人以上を行っています。またこれらのいろいろな治療法を組み合わせる集学的療法を積極的にすすめています。そのために最新の医療機器（PET-CT、SPECT各1台、CT、MR各2台、乳房撮影装置1台、放射

線治療装置1台、前立腺癌小線源治療装置1台など）が稼動しています。

2 がん登録

他地域との比較などによって効果的ながん対策を作り、がん診療の向上に必要な情報等を得るため、国が定めた内容に沿って患者さんの診断・治療の情報を登録しています。そのため当院の治療終了後にも健康状態などの調査をお願いすることがあります。

3 緩和ケア

院内に緩和ケアチームを作り、治療の初期段階から患者さんとその家族が可能な限り質の高い療養生活を送れるようにサポートしています。一般病棟や在宅では対応困難な患者さんのために平成21年度に緩和ケア病棟の開設を計画しています。

4 地域連携

がんの治療には、状態に応じた継続的な診療が大切です。そのため当院では医療連携室を中心として積極的にかかりつけ医との連携をすすめています。また地域医療機関の医師、看護師などのスタッフとの研修会、交流会を定期的に開催しています。

5 相談支援、情報提供

今年3月にがん相談支援センターを開設し専任のスタッフがいろいろなご相談に応じさせていただきます。お気軽にご相談ください。

がん相談支援室を医療連携コーナー奥に設置しました。

お気軽にご相談ください。

がんに関する情報は

当院のがん相談支援センターへお問い合わせになるか、当院のホームページをご覧ください。

がん相談支援センター
0572-22-5311
(内線487)



（治療法の選択などに関して主治医以外の医師による助言）外来についてのお問い合わせも受け付けています。住民の皆さんを対象にした各種講演会、シンポジウムなども開催していますのでぜひご参加ください。

最後に

がんに対するもっとも有効で基本的な対策は、正しい食生活や生活習慣を身につける、禁煙・分煙の推進、がん検診をすすんで受ける、など身近なところにあります。さっそくまわりの人と一緒に始めましょう。

副院長兼外科部長
原田 明生

病院の
基本理念

基本理念

「安全で、やさしく、
あたたかい医療に努めます。」

行動指針

1. 分かりやすい言葉で、分かりやすく説明します。
2. 安全を何度も確認することを怠りません。
3. 常に高度先進医療を取り入れ、進化を目指し自己研鑽に務めます。
4. 倫理観に基づく医療人としての誇りと自覚をもって取り組みます。
5. 健全経営に務めます。

「今、お産を考える」
シンポジウムin東濃

日本全国で医師不足の状況が問題になっていきます。特に産科や小児科は廃止する病院が続出しており、危機的状況になっていっていると言われていきます。この東濃地域も例外ではなく、今年になって恵那市や土岐市では、産科施設がなくなってしまうました。そんな中、当院と東濃保健所が中心となり「東濃地域における周産期医療を考える会」が発足し、この地域の現状を知ってもらい今後の対策を考えるため10月27日土岐市文化プラザにおいてシンポジウムを開催しました。



シンポジウムでは「考える会」の会長である舟橋院長が座長を務め、ハイリスク出産を経験された一般市民の方をはじめ、医師や報道関係者など6名のパネリストが意見を発表し、最後に意見交換がされました。産科の医院がなくなつた地域の方からは、身近にお産をする場所がなくなる不安を訴えられました。



医師の側から西尾産婦人科の西尾院長と当院の竹田産婦人科部長から発言がありました。共通して言われたのは日本の周産期医療は、医師や助産師などの献身的な努力によって世界的にみて最高レベルであること。一方で厳しい勤務実態、訴訟リスクの高まりなどで医師が産科診療から撤退をはじめており、これまで築いてきた周産期医療体制が崩れかけているという現状認識です。また、お産には一定のリスクがあり、そうしたお産を支えるためにはZICなどの設備や、小児科や麻酔科など関係する医師との連携が不可欠だということでした。

ハイリスク出産をされたご夫婦は、子どもを授かることの喜びを語られました。こうした方々を支え、安心してお産ができる体制を構築するためには、医療報道の問題を含め、広く国民の理解が必要だと感じるシンポジウムでした。

市民公開講座
「大腸がんはこわくない」

一般市民の方を対象に平成19年9月29日に多治見市文化会館大会議室で公



開講座を開催しました。この講座は地域に開かれた病院を目指し平成17年から開始し3回目となります。今回は、がん診療連携拠点病院としての活動の一環として「大腸がん」をテーマに取り上げました。大腸がんの予防と対策について、消化器内科の佐野・戸川医師、消化器外科の伊藤医師、麻生看護師、須藤栄養管理士がそれぞれ講演し、最後に原田副院長を座長として参加者との質疑応答が行われました。当日は百十人程の方が参加され熱心に聴講していただきました。アンケートでは「安心して県病院にかつことができました。」「親近感をもつことができました。」「という声もいただきました。今後このような企画をとおし、地域の方々に最新の医療情報をお届けし、地域の健康増進に貢献できればと考えておりますので、次回開催の際はぜひご参加ください。

糖尿病週間啓発イベント

全国糖尿病週間は11月の第2週とされていますが今年から世界糖尿病デーである11月14日を含む週に変更されました。世界糖尿病デーには、世界各地でテーマカラーである青色のライトアップが行われましたので、テレビ等でご覧になった方も多いのではないのでしょうか。県内でも岐阜城がブルーにライトアップされました。

ちなみに11月14日は、糖尿病の治療に使用されるインスリンを1921年に発見したフレデリック・バンティングの誕生日にあたります。

当院でも、リハビリテーション科、薬剤部、栄養管理部、看護部が作成した啓発ポスターを期間中掲示し、糖尿病の予防と対策についてPRしました。また、11月15日には、血糖測定がおこなわれました。内分泌内科の田口・伊藤医師によって測定結果の説明がおこなわれ、多くの方が耳をかたむけていました。



最小侵襲手術について



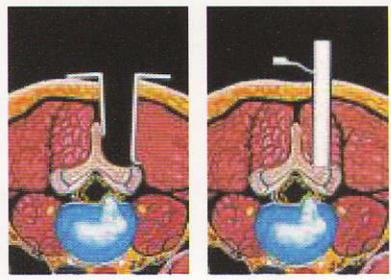
整形外科部長
伊藤 茂彦

さて皆さんは最小侵襲手術
(minimum invasive surgery 略し
MIS)という言葉をお聞きになった
ことがあるでしょうか。

ほんのつい先頃までは、手術とい
えば病気のある場所を的確に最小の
出血量、最短の所要時間で展開し、
そのためには多少の正常組織を傷つ
けることもやむを得ないという考え
方が一般的でした。しかし誰にも明
らかなように正常で健康な組織を犠
牲にすることは最小限に留めたいも
のです。そこで最近では、例えば
実際にお腹を切り開くのではなく、
内視鏡(カメラの一種)を入れてモ
ニター下で手術操作を行う内視鏡視
下手術が盛んに行われるようになり
ました。この方法ですとお腹には小
さな孔を開けた後が二つぐらい残る
だけで、患者さんの手術の後の
痛みも少ないもので済みます。

整形外科領域ではこの内視鏡視下
手術というものは比較的早くから行
われていました。膝の関節の中の半
月板という軟骨や、十字靭帯などの
観察を行う関節鏡検査がそれに当
たります。この検査では反対側から
挿入した器具で半月板の摘出や縫合
さらには断裂した靭帯の縫合まで行
います。

外特にヨーロッパで先に評価され日
本に逆輸入される形で戻ってきました。
た。いつも思われることですが、す
ぐには新しい物を取り入れたがらな
い日本人の保守的な習慣の結果です
ね。この関節鏡カメラも改善され
今ではかなり鮮明で高水準な画像を
映し出せるようになり、それに相伴
った手術器具の開発も関節鏡視下手
術を飛躍的に発展させる一助となり
ました。



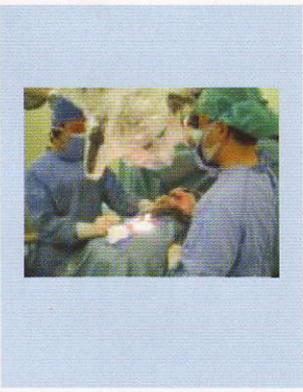
通常法

MED法

これらの手技は脊椎外科の椎間板
ヘルニアなどを摘出する手術にも応
用されています。実際に私たちは、
この内視鏡視下椎間板ヘルニア摘出
手術(MED)のときに使われる術野
を獲得するための開創器を使用し、
内視鏡ではなく顕微鏡を利用して展
開する独自の脊椎外科手術を行って
います。その術式では健康な腰背部
の筋肉を剥離展開するダメージを最
小限に食い止めています。これは手

術後の痛みの軽減、早期離床にもつ
ながります。
また輸血が必要となるような大き
な手術では、あらかじめ患者さんご
自身の血液を保存しておいて後から
ご自身に戻す自己血貯血や、手術中
に出血した血を回収して再度輸血す
る自己血回収術などを行い、他人か
らの輸血を必要最小限に食い止め感
染症の伝染を防止する工夫も行って
おります。

この他にも人工股関節、人工膝関
節置換術などの関節外科領域でも特
殊な器具の開発により盛んに最小侵
襲手術の導入が取りざたされるよう
になりました。もちろん私たちも既
にこれらの術式を導入しております
が、本当の意味での最小侵襲手術
MISとは単に手術のための切り口で
ある切開線が小さいのみではなく、
患者さんへの負担全般にわたり可能
な限り小さなものでなくてはならな
いと考えて治療に当たらせていた
こととお思っております。



前立腺がん小線源治療を開始します。 放射線科&泌尿器科



前立腺がんは男性のがんの中でも急速に増えています。今回当院が行う前立腺がん小線源治療は放射線療法の一つで、放射線を放出するヨード125を封入した筒状の小さなチタン製カプセル(小線源)を、前立腺の中に直接刺入する治療方法です。欧米では15年以上の歴史があり、米国では年間65000人がこの治療を受けています。日本では2003年から始まり、昨年2006年は2000人以上がこの治療を受けています。最大の利点は開腹手術をしないことです。そのため、副作用が少ない治療法で急速に広まってきていますが、東濃地域では当院でしか行っておりません。

実際に治療を希望される方、詳しい説明をお聞きになりたい方は下記までご連絡ください。
TEL 0572-22-5311(代) 内線488 医療連携室

病院で患者さんを支援するのは医師や看護師だけではありません。当病院にはボランティアで患者さんを支えてくださる方々がいらつしやいます。現在、県病院で活動をされている二人の方にお話をうかがいました。

1人目はボランティア活動をはじめて4年目になる佐橋えり子さんです。佐橋さんは東濃フロンティア高校の現役の教師です。高校の総合学習でボランティアをとりあげることになつたとき、教える側にボランティア活動の経験が乏しいことに気づき、近所にある身近に感じていた県病院で活動することになりました。また、「自分の生きる姿勢にゆきづまりを感じていて、ボランティアで変わるんじゃないか」という思いもあつたそうです。

ボランティアさんには主に都合のつくときに病棟で患者さんの食事介助や病室の環境整備を行っていたのですが、佐橋さんはそれ以外にも週末や夏にボランティア休暇を取得して総合案内のお手伝いをしたり、年末やお正月にも活動されています。

ボランティア活動を通して感じたことを教えていただきました。「ボランティア活動は全然苦痛ではありません。むしろはげみになっていきます。ドクターや看護師、薬剤師になった教え子の活躍を目の当たりにしたり、大切な人と再会もでき、いろいろな人とつながりができたことがうれしかったです。見ず知らずの人とでも気持ちを通じることがわかりました。」「医療の現場に接することで命の大切さが実感できました。死を前にした人達、ぎりぎりのところで生きている人達に接し

て生きていることはすごいことだと感じました。病氣と向き合つて克服していく姿に『病を得る』という言葉の意味をかいま見ることができました。」「自分を理解し応援してくださる方や家族を支えられて可能な限りボランティア活動を続けていきたいという佐橋さんでした。



2人目は今年十月からボランティア活動を始められた小島美香さんです。小島さんは今年5月に当院で手術を受けました。そのとき医師や看護師にとってもよくしていただいたので何かできなかつたかと思つていたところ、お世話になつた病棟でボランティアをしたらどうかとすすめられたことが活動のきっかけとなりました。

入院中は手術に対する不安、将来への不安など精神的な負担がかなりあります。そんな担当医の「大丈夫ですよ」という励ましの言葉がとてもうれしかったそうです。また、「とてもかわいらしい」看護学生が実習で小島さんの担当になり、手術後のリハビリ運

動について説明してくれたり、旦那様やお子さんがいない昼間、おしゃべりの相手になってくれたこともうれしかったそうです。「自分と同じ患者さんを見かけたら、お話をさせていただいています。病氣で不安を感じている患者さんに自分の経験を話しし、喜んでいただく達成感を感じます。」とお話していただきました。



笑顔の素敵なお二人に感謝します。

ボランティアさん募集

当院では入院患者さんの日常生活のお世話や外来受診の案内、環境整備、通訳など様々なボランティアさんを募集しています。「やってみよう」と思い立った方はぜひご連絡ください

連絡先 看護部

0572-22-5311(代)
内線303

PET/CT健診(自費)のご案内

PET/CT装置による健診(自費)が可能になりました。PET/CT装置は精度の高いがん診断のための装置で次のような特徴があります。

- ◎一度の検査で全身をチェックすることができます。
- ◎ほとんど苦痛が無く、撮影にかかる時間は30分程です。
- ◎がんの早期診断、転移や再発の診断に有用です。

※検査の前に放射線科外来で受診する必要があります【金曜日】。医師から問診や検査の説明を受け、検査の同意書を書いていただき、検査日時・結果説明日時【原則金曜日】を決めます。

- 申込み方法
 - ・予約は、初診受付窓口又は電話(0572-22-5311内線490)で受付します。
 - ・金曜日の当日に受診される方の初診窓口受付時間は8時30分から11時までです。
 - ・後日の予約受付は、初診受付窓口・電話ともに13時から17時までです。

■費用 自費検査の費用は、外来診察(事前、結果説明)と検査で合計82,000円程度です。



栄養管理部から

「メタボリックシンドローム」という言葉を最近よく耳にするようになってきました。「お腹の周りが太くなって内臓脂肪が貯まること、更にこれに血圧、血糖、中性脂肪が高くなるという危険因子が重なることで動脈硬化が起きる可能性が高まる」というもので、動脈硬化症になりやすい人の早期発見を目的につけられた言葉です。この「メタボリックシンドローム」を始めとする生活習慣病と食事が切っても切れない関係にあることはご存知の方も多いかと思えます。毎日三食、何気なく食べている食事は、健康な体を維持するために非常に大きな役割を担っています。治療においても、食事療法はすべての患者様に共通する治療のひとつと言っても過言ではなく、特に術前術後の患者様や生活習慣病の患者様には有効だとされています。当院栄養管理部では、患者様の病態に応じた栄養管理を行い、一日も早い回復をサポートしています。

◎栄養相談を行っています。

入院中の患者様や外来で食事療法が必要と判断された患者様に、治療食の説明や食事面でのアドバイスを行っています。

相談日時

毎週月～金曜日
(祝日・年末年始を除く)
午前9時～午前11時
午後2時～午後4時
(曜日によって多少時間は異なります)

場所
新東棟地下1階 栄養相談室

糖尿病、肥満、腎臓病、肝臓病、高血圧、高脂血症、潰瘍性大腸炎、クローン病などさまざまな病態にあわせた食事を、管理栄養士がわかりやすく説明しています。相談前には患者様の食生活状況を聞き取りさせていただき、一人ひとりの生活習慣に合わせた実践しやすい内容の指導を行うよう心がけております。(栄養相談は治療の一環であり、医師からの指示が必要となります。医師の診察を受けていただいた上で栄養相談を行います。)

◎イベント食(グルメ食)を行っています。

入院中の患者様の生活に少しでも潤いを感じていただきたい気持ちから、当院ではイベント食を提供しております。できるだけたくさんの方々に食べていただけるよう、治療食やアレルギー除去食など食事の制限がある患者様にも一人ひとりに応じた個人対応を行い提供しております。



●7月のグルメ食
鮎の塩焼き、炊き合わせ、茶碗蒸し、うざく、和菓子



看護部から

「がんばっています、認定看護師」



東2階看護師 東 智美

(社)日本看護協会認定「皮膚・排泄ケア認定看護師」の資格を、2007年7月に取得し、現在、病棟業務に従事しながら、週2回(火曜日・木曜日)活動しています。

認定看護師は現在17の専門分野で活動しており、その中で、皮膚・排泄ケア認定看護師の数は、全国で570名、岐阜県では11名登録されていますが、この東濃地域の施設では初めてとなります。

皮膚・排泄ケア認定看護師の活動は、主に、人工肛門・人工膀胱(ストーマ)といいますが、造設された患者様の日常生活の悩みや皮膚障害へのケアを入院中から外来へと継続的、長期的にサポートさせていただきます。また、褥瘡(じよくそう)床ずれ)の予防や傷の処置、排泄障害に伴う臀部・陰部の皮膚障害など皮膚に関するケアを行います。

入院患者様のじよくそう予防は、療養環境を整えることに繋がっていますので、看護力の向上が重要です。毎日、じよくそう発生状況の把握に努め、各病棟を巡回し部署ごとのスタッフと連携し、相談・指導にあたっています。

まだまだ、未熟ではありますが、ストーマケアやじよくそうへの対応

など皮膚・排泄ケアについてお困りのことがありましたら、ぜひ、ご相談ください。各外来窓口(ストーマケアは外科・泌尿器科、じよくそうに関しては形成外科)へご連絡いただけます。相談日時を調整させていただきます。(相談日は火曜・木曜のどちらかになります)

看護師さん募集

東濃地区の基幹病院で資格を生かしてみませんか。わたしたちと一緒に働いていただける看護師さんを随時募集しています。

お気軽にご連絡ください。

看護部

0572-22-5311
(内線302・303)



編集後記

岐阜県立多治見病院広報誌17号をお届けします。新聞には毎日医療に関する記事が載っています。テレビでもニュースはもちろん病院を舞台にしたドラマが数多く放送されています。病院は、あらゆる人にとって身近な存在であることがわかります。地域の皆様により身近に感じていただけるよう、「安全で、やさしく、あたたかい医療に努め」ています。

「インフルエンザ」の季節です。手洗いやうがいできっちり予防しましょう。ご意見お待ちしております。

広報委員会(総務課管理調整担当)
TEL 0572-22-5311 (内線211)

〒507-8522
多治見市前畑町5丁目161番地
E-mail c22602@pref.gifu.lg.jp

外来診療表

診療科目	初診・再診別	月	火	水	木	金	
内科	初診	消化器	佐野	戸川	安藤 第1・3・5週 上野 第2・4週	宮部 第1・3・5週 吉村 第2・4週	坂
	再診	消化器	安藤	宮部	戸川	西江	佐野
			—	—	夏目	—	—
	初診・再診	循環器	日比野	藤巻	加藤	日比野	小栗
			加藤	横井	吉田	横井	矢島
		膠原病 リウマチ	佐々木	横田	佐々木	横田	—
		腎臓内科	—	加藤	—	浦濱	—
		血液内科	花村	徳山 第1・9・5週	新美	花村	岩井
	内分泌	田口	伊藤電	田口	—	伊藤電	
	初診再診	呼吸器	福田	森	村松	國井	高野
神経内科	初診・再診	梶田	亀山	梶田	堀部	中藪	
	再診	亀山	中藪	亀山	中藪	亀山	
		中藪	勝又	堀部	梶田	堀部	
整形外科	初診	1・3・5週	水野	高津	伊藤茂	高津	山本
		2・4週	岩田	小林	岩田	門野	小林
	再診	水野	高津	伊藤茂	高津	山本	
		小林	門野	岩田	小林	門野	
	厚生相談	—	—	—	—	水野	
形成外科	初診・再診	竹中	竹中	加藤	加藤	多田	
眼科	初診・再診	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	
		高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	
放射線科	初診・再診	浅野	小山	浅野	小山	浅野	
女性外来	初診・再診	—	—	—	—	松下	

■診療開始時間 午前9時～(診療科によっては午前8時30分～)
 ■休日 土・日・祝祭日、及び年末年始(12月29日～1月3日)
 ※予約のない方の診療受付時間 初診・再診 午前8時30分～午前11時まで。
 ※各診療科目担当医師については、都合により代診させていただく場合があります。
 ※救急診療については、救急外来受付(内線511)まで、お問い合わせください。
 ※女性外来の予約は、医療連携室(内線487)へご連絡ください。

診療科目	初診・再診別	月	火	水	木	金	
精神科	初診・再診	太田	廣江	太田	曾根	新畑	
	再診	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	
小児科	初診・再診	中野	荒川	浜田	中野	小久保	
		小久保	石田	立木	荒川	立木	
	特別外来	[心臓]	[相談]	[相談]	[心臓]	[神経]	
		荒川	中野	中野	水野	濱口	
	午後特別外来	[1ヶ月診察]	[心臓]	[川崎病]	[相談]	[乳児]	
向井		荒川	中野	中野	小久保		
外科	初診再診	末岡	園原	小西	市川	出口	
	初再診	市川	大野	—	末岡	大野	
		—	[血管]	中山	[血管]	—	
	呼吸器外科	伊藤正	—	—	—	伊藤正	
脳神経外科	初診・再診	島戸	伊藤淳	西澤	伊藤淳	代務医	
麻酔科	初診・再診	間淵	山崎	稲垣	山田	宮津	
皮膚科	初診・再診	横田	横田	横田	横田	横田	
		福本	福本	福本	福本	福本	
泌尿器科	初診・再診	高士	桃井	高士	—	桃井	
産婦人科	初診	竹田	中村	三井	三井	境	
	再診	婦人科	中村	森	竹田	境	竹田
		産科	三井	境	森	—	中村
耳鼻咽喉科	初診・再診	富田	伊藤陽	上田	伊藤陽	富田	
	再診	上田	富田	伊藤陽	上田	伊藤陽	
歯科 口腔外科	初診・再診	佐藤	堀田	大隅	佐藤	大隅	
	再診	大隅	大隅	佐藤	大隅	佐藤	

外来診療の電話予約について

混雑緩和と利便性向上のため外来診療は予約制としております。継続して診療を受けておられる患者様には、診察時に次回の予約をしていただきます。予約を保留された場合やしばらく受診のない場合は、電話予約のうえご来院ください。

予約専用電話 0572-21-2200

電話予約受付時間 当日の予約(平日) 8:30~11:00
翌日以降の予約(平日) 13:30~16:30

※診察券の患者番号をお知らせください。
 ※診察券のない初診患者様は、電話での予約はできません。
 ※診療機関からの紹介患者様については、診療機関から当院医療連携室へご連絡ください。

初診患者様のFAX予約について

当院の受診歴のない方でも、次の項目をFAXしていただければ予約できます。

- ①氏名(漢字とフリガナ) ②性別 ③生年月日 ④住所と郵便番号
- ⑤電話番号(折り返し連絡する電話が別の場合はその電話番号も)
- ⑥健康保険の種類・保険者名・記号・番号 ⑦受診希望診療科名 ⑧受診希望日時

初診予約用FAX 0572-22-7948

※折り返し電話予約センターから電話を入れます。ただし、電話予約受付開始から1時間程度は予約電話が混雑するため、すぐにご連絡できない場合があります。また、電話予約受付時間以外の時間帯にFAXされた場合は、ご連絡が次の電話予約受付時間内になります。
 ※FAXで予約された場合でも、初めてご来院されたときに診療申込書の記入と保険証の提示が必要です。